

旭川市の除排雪について（委員からの質問・意見等まとめ）

資料 1



設問・意見等	事務局意見・回答
1 旭川市の除排雪について、日頃感じていることや聞きたいことなど、御意見・御質問がありましたら記入してください。	
市民の除雪の協力について ①雪処理のマナーについて、苦情件数は増えているか。 ②くらしのアプリの活用はどんな状況か。 ③パトロールでの指導はあるのか。 ※意識が高まって欲しい。坂口さんのテレビCMはいいと思う。	①道路への雪出しに関する苦情要望件数は、令和5年度の129件に対し、令和6年度は133件あり、苦情要望件数全体との割合や降雪状況を考慮すると関心が高いものと考えています。 ②除排雪に関する様々な情報や除雪車の走行経路の軌跡に加え、令和6年度から除排雪の改善要望に関する通報フォームを設けたところ、226件の情報が寄せられました。パトロールによる現地確認を行わずとも添付画像を通じ対応を判断することができ、道路状況の改善の迅速化につながったものと考えています。 ③パトロール時に雪出し行為などを確認した場合は随時指導を行っています。苦情要望133件では現地調査で98件の雪出しを確認し、うち13件については行為者に直接口頭指導し、そのほかの案件はチラシ配付などの対応を実施しています。
北海道でも新潟県や石川県のように道路に消雪パイプが設置できないものか？市内の道路に何ヶ年かけて計画的に設置できればいい。市内中心部の流雪溝や、基北川への投雪などと複合して実施でき、負担の軽減が図れるのではないか。予算的に実施が難しいのであれば、冬季に使用していない廃校の跡地や公園、空き地等を選定して、大型の消雪パイプ的なものを設置し井戸を掘って地下水を汲み上げ、雪を溶かして地下に戻すようにすれば無人でも危険性がなくて良いのではないか？ センサーで判断し、雪が降りだすと自動的に水が出て、降りやむと自動的に水が止まるようにすることや、付近住民の投雪により雪山がたまれば、手動やタイマーで溶かすこともできるようにして、人が常時付いていなくても運用できるように出来れば、危険性も予算も少なく実施出来るのでは？町内会に若干の維持費としてポンプの電気代の補助程度を負担してもらっても良いのではないか？	消雪パイプは、道路にパイプを埋め込みノズルから地下水を散布する除雪融雪装置で、昭和30年代に新潟県長岡市で発祥し、北陸地方など比較的気温の高い降雪地域で急速に普及しました。 一般的に地下水方式の場合、1月の平均気温が0℃以上の地域で適用が目安となっており、北海道など気温の低い地域では、路面や設備自体が凍結するため道路への設置は困難な状況です。 また、空地等への大型消雪パイプの設置については、地盤沈下の問題や融雪水を排水するための雨水管の整備に加え、地下に戻す場合には地下水の汚染につながる可能性があり、長岡市においても新設を原則中止し、除雪車両による作業を基本しているなど、導入には多くの課題があります。

1 旭川市の除排雪について、日頃感じていることや聞きたいことなど、御意見・御質問がありましたら記入してください。

スポット排雪・コラボ排雪の取組は継続してもらいたい。コラボ排雪では特に振興局路線、緑橋通以外に、1条流雪溝区間～東警察署でも検討してほしい（除排雪業者が回り切れていないのではないか）。道路の委託・交換は出来ないのか。

令和4年1月に締結した旭川市の道路除排雪に関する協定に基づき国、北海道と、効率的な除排雪に向けた調整を行っており、スポット排雪では、重点交差点での排雪強化により走行速度の低下が緩和し交通量が増えたなどの効果が確認され、引き続き取り組んでいく考えです。新たに実施したコラボ排雪は、道道と市道が連なる緑橋通で排雪日程を合わせ、通行性の向上が図られたところであり、その効果を踏まえながら取組の拡大や除雪路線の交換・委託について検討を進めていきます。

消流雪用水事業について、水量調整を行い維持費もかかっていることを知った。東光川・アイヌ川・ウップツ川などでは当たり前のように雪捨場として使用されている。川の改修工事をするにより、市民も土木請負会社にも良いことだと思う。

消流雪用水事業については、大きな河川からの導水が必要となるため、対象となる河川が限定される場所ですが、北海道により令和4年度から消流雪事業の導入が可能である東光川の河川整備が進められており、冬期の地域の道路状況の改善に大きくつながるものと期待しています。

今年の降雪量・気候では、運搬排雪がなくなることにより2月以降のダンプ事業者の仕事がなくなり、死活問題になっています。排雪に依存しているダンプ事業者が多く補償制度が必要。

本市の総合除雪業務では、排雪業務では年間の想定排雪量に対し人件費の6割及び除雪機械の維持に必要な固定経費相当額を補償する規定としており、当初設計数量の約8割を最低補償する内容となっています。
担い手不足や働き方改革の本格実施など企業も多くの課題を抱える中、シーズンを通して業務体制を維持するために最低保障制度の見直しに向けた検討が必要と考えています。

2023年12月の大雪の際には、生活道路がザクザクで多くの車がスタックして動けなくなり、除雪センターには毎日何とかして欲しいとの苦情が多く寄せられた。今シーズンは圧雪を薄く管理して数日のうちに排雪に入ったため、道路幅も数日間は狭くなったものの排雪により広くなり、パトロールしていてもあまり問題の箇所が少なかったように思う。

生活道路の圧雪管理については、令和3～5年度に実施した路面管理手法の試行結果を踏まえ、令和6年度は、極端な大雪に備えた圧雪路面の削り取りや幅員確保のため、初冬期における新雪除雪時に往復作業の実施のほか、1月上旬から中旬にかけてのザクザク路面が市内一円に徐々に広がった際には、根本的な解消を図るための排雪作業を行いながら、部分的なザクザク路面の削り取り作業を並行して実施し、1月20日に高温が予測された際には、事前に雪割作業を実施するなどの対応を行ったところです。

雪出し禁止の旗を市民委員会で50枚くらい作成して啓蒙活動に使いたいと思う。

令和7年度に100枚程度制作し、配付を希望する除雪連絡協議会に配付する考えです。

2 次回の審議会で用意してほしい資料などがありましたら、記入してください。

消雪パイプ設置の可能性 ①新潟県の消雪パイプの設置は、設置距離、実施予算、維持費はどれくらいかかっているのか？ ②旭川市だけの予算では無理なのか？ ③氷点下何度まで運用できるのか？ ④設置した場所に除排雪の重機は入れないのか？ ⑤予算の補助は国からもらえるのか？ 等が知りたい。	①新潟県では、国、県、市町村ごとに管理する道路に消雪パイプを設置しています。長岡市では市が管理するパイプのほか、町内会や消雪組合など地域が設置し維持管理するパイプもあり、県内全体の設置距離、予算、維持費等を確認することは困難です。 ②道路管理者（国、道、市）ごとに予算措置が必要です。 ③平均気温が0℃以上での適用が基本となっています。 ④消雪パイプ設備の故障時等を除き、機械除雪は原則行っていないものと思われます。 ⑤気候が施設設置に適した状況ではないため、補助については現状では困難です。
TVコマーシャルの実績を教えて欲しい。 例えばUHBで朝昼夕方ごとの放送回数、時間帯を知りたい	令和6年度に実施したあさひかわの除排雪周知啓発強化業務では、2つの放送局でテレビCMを実施しており、放送回数等は次のとおりです。 ①札幌テレビ放送（STV） ・放送期間 1/1～2/28 ・放送時間帯 平日昼（11:55～13:54）のスポットCM 放送回数 13回 ②北海道テレビ放送（HTB） ・放送期間 1/1～2/28 ・放送回数（時間帯ごと）Aランク（19時～22時台）2回、 Sランク（特定の人気番組帯）10回、Bランク（7時～9時台、14時～18時など）3回、 Cランク（早朝深夜時間帯など）45回 計60回

3 その他、御意見がありましたら、記入してください。

今年のように雪が少ない年に余った除雪費を上記提案の設置等の何れかに回せないものか？	予算は議会の議決（承認）を受けて執行しており、大きな事業変更を行う場合には補正予算を提案し議決を経ることが必要です。除雪費に余剰が生じたことを理由として他の事業に支出できるものではなく、また翌年に繰り越すこともできません。
排雪ダンプカウンターについて、開発局・旭川市は必要でダンプ事業者が負担して設置しているが、受け取る時間単価には反映されていない。今後土木工事などで使用されるであろう、AIダンプキーパなるものを雪堆積場に設置すれば、ダンプ事業者負担も減るし、地方からの応援車も集めやすくなる。	ICTを活用したダンプトラックの出入り管理については、多額の費用（意見の設備を全ての雪堆積場に設置した場合年間4千万円以上）を要するため、現状では導入は難しいものと考えますが、引き続き情報収集に努めます。
TV広告は1社だけでなく数社に広げてはどうか？	令和6年度あさひかわの除排雪周知啓発業務では2つの放送局でテレビCMを放映しました。令和7年度にどのような媒体を活用し啓発を行うかは現時点では未定です。